

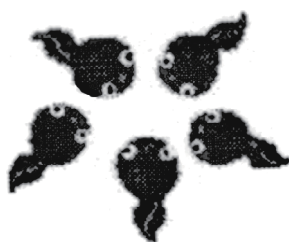
ニューズレター 2010 年度第2号

日本音楽表現学会 2010年11月30日発行

目 次

1. 【巻頭言】 音楽の喜びを伝えられる学会へ	杉江 淑子	2
2. 【随想】 アンサンブルの新たな楽しみ方	河村 義子	3
3. 新入会員紹介		4
4. 会員によるコンサート等の情報		5
5. 会員によるCDリリース		7
6. 会員による新刊案内		7
7. 教員公募		7
8. 日本音楽表現学会 [編]		
『音楽表現学のフィールド』刊行！会員特別価格による購入受付開始！		8
会員特別価格『音楽表現学のフィールド』購入申込書		9
9. 機関誌『音楽表現学』編集委員会からのお知らせとお願い	小西 潤子	9
10. 『音楽表現学』Vol.9 原稿募集		9
11. 事務局からのお知らせとお願い		10
12. 各種書式		11
13. 日本音楽表現学会第9回大会のご案内		12
第9回大会発表募集と申込書		12
14. 役員名簿・編集後記		12

日本音楽表現学会



所在地：〒616-8025 京都市右京区花園土堂町1-6

事務局：〒520-0862 大阪市平津2-5-1 滋賀大学教育学部杉江研究室気付

Tel. & Fax. 077-537-7792

E-mail: music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jmexs/>

年会費 (5,000円) の振り込み

郵便振込口座：01370-6=78225 加入者名：日本音楽表現学会

音楽の喜びを伝えられる学会へ

—「元服の儀式」を終えて—

日本音楽表現学会事務局長 杉江淑子（音楽教育学・音楽社会学）



大津市の寓居から徒歩15分のところに〈びわ湖ホール〉（滋賀県立芸術劇場）が開館して12年の月日が流れました。日々の忙しさの中にあつて潤いを忘れがちな私の

生活にとって、このホールの存在はいまや大きなものとなっています。しかし、歩いていけるところに劇場がある…手の届くところにライブの音楽がある…こうした環境はどういうわけか、現代の日本では手に入れることが難しいものとなっているような気がします。

劇場やホールは、1980年代後半から90年代にかけて、そこそこに数多く建設されました。これらの建設はバブル景気の恩恵にあずかってのところも大きかったと思いますが、こうした劇場・ホールが私たちの近所に建設されたときには、多くの人々がなんとなく嬉しく、晴れがましいような気分になったのではないのでしょうか。しかし、こうした喜び、晴れがましきは、経済状況の低迷・後退とともに文字通りアブクのごとく消え去った感があります。物理的には劇場やホールが存在していても、人々の気持ちがそこに向かう余裕をなくしてしまっているのです。なぜなのでしょう。

まずは衣食住、日々の生活を成り立たせることが第一ということかもしれません。ともかく忙しい！という理由のわからない多忙感もあるでしょう。しかし、芸術の喜び、音楽の喜びというものは、さほどに脆いものなのではないのでしょうか。そんなはずはない。私はいつもこのことを考えるとき、生の極限状態の中で、音楽を求め、文学を求めた人間の姿が描かれているマルセル・ライヒ＝ラニツキの自伝を思い出します。ラニツキの自伝については、別のところで記述したことがありますので省略しますが、本学会の会員の皆さまも、音楽はそんなに脆いものではない、生の喜び、愉悦、幸福感を人にもたらしものであるということを身に沁みて

感じていらっしゃる方々であると思います。

そうした音楽の喜びを、子どもたちに本当に伝えることをしてきたらどうか？現代の日本にそうした環境が失われているとしたら、それは音楽がもたらす目に見えない幸福を、「よそゆき」のものとしてではなく、もっと傍にあるものとして人々に伝えきることができてこなかったからではないだろうか？音楽教育に関わる仕事をしていると、そのようなことをあれこれと考えてしまいます。

こうした日々の今年5月、〈びわ湖ホール〉でも「ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン」が開催されました。ワクワクしながらチケットを握り締めてコンサートをはしごする楽しさを、会場に来ていた多くの親子連れや子どもたちが味わったに違いないと思います。質の高さと親近感を兼ね備えたこうした催しが今後、自前のものとして日本に根付いていけば…と心から願いつつ会場を去りました。

さて、7月に事務局を引き継ぎ、新米として右も左もわからないまま走っているうちに半年近く過ぎました。本学会に入会のお誘いをいただいたときには、こうして事務局を引き受けることになろうとは夢にも思わず、ただ、楽しく活気があり、何よりも音楽を愛する人々の集まりだなあ…と感じながら、心地よく大会に参加しておりました。

そのようななか、事務局長を突然務めることになり、気持ちはあれど頭も手足もついていけないという状況です。設立当初から本学会に熱い思いを注いでくださった諸先輩をはじめ、会員の皆様の支えがなければ前に進めません。学会は、会員数300名をゆうに超え、初の論文集『音楽表現学のフィールド』もこの12月に東京堂出版より刊行となりました。「元服の儀式」（『音楽表現学のフィールド』序文の奥会長の言葉より）を終えた本学会が、人と音楽とのより深いつながりを求めてさらなる成長を遂げていくためには、皆様からの叱咤、激励、ご協力がかせませません。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

アンサンブルの新たな楽しみ方

河村義子（ピアノ）

私はアンサンブル、とりわけ室内楽の魅力に惹かれ続けてきました。近年では、オリジナルの編成をアレンジしたものも積極的に取り上げています。同じような関心をお持ちの方と情報交換・研究交流をさせていただけたらと願い、ここにその取り組みについて報告させていただきます。

1. 編曲版室内楽の公演

1999年に、ドイツのシュトゥットガルト・ゾリステンとショパンのコンチェルト第2番をピアノ六重奏の編成（ヴァイオリン2、ビオラ1、チェロ2）により共演いたしました。ゾリステンのメンバーがオーケストラの部分の弦楽五重奏にアレンジし、私のピアノと合わせながら仕上げました。

室内楽では、個人の楽器奏者との密な会話が楽しめます。気になるところなどを個々に話し合い、バランスを取り、ピアニストの私も弦楽奏者の彼らも、シューマンのピアノ五重奏などの時と同じく充実感を持って取り組むことができました。Tuttiの一人として音を共有する喜びを見出したのです。そして、ショパンのオーケストレーション（「彼はオーケストラが分かってない」とか「簡単なのでオケマンは演奏したがる」と色々と色々言われていますが）は、ピアノを重んじたがゆえの結果であることを理解しました。

そして、昨年秋、モーツァルトのピアノ四重奏曲K.452を、同じくシュトゥットガルト・ゾリステンと共演しました。このピアノ四重奏曲は、オリジナルはピアノと木管のための五重奏曲です。この曲は、1871年にリトルフ社から出版されたものがドイツの地方の骨董品屋で2003年に、発見されたものです。「忘れられた室内楽を復活」するため、カッセル室内楽出版社が2004年に出版しました。作品番号は同じですが、内容はずいぶん違ってきます。それらを比較しながら、違ったK.452の響きを楽しみました。

この木管→弦楽へのアレンジ曲を演奏したことがきっかけで、その逆の発想をしました。今年7月に、

オリジナルが弦楽であるシューマンのピアノ五重奏曲を、木管四重奏（フルート、オーボエ、クラリネット、ファゴット）とピアノの編成で演奏しました。楽器の演奏可能な音域、演奏方法の違いなどを確認し合い、パートを入れ替えるなど、時間をかけて楽譜にしました。同じメロディーが出てくるところを楽器を変えてみたらどうだろうかなど、まだまだ研究の余地がある段階ですが、弦楽器が奏でる調和した重厚な響きとはまた違って、個々の楽器の音色の違いがとても新鮮で、演奏者も聴衆も非常に楽しめました。（シューマンはあの世でどんな気持ちで聴いてくださったかはわかりませんが・・・）

今は、ショパンの第1番のコンチェルトをシュトゥットガルト・ゾリステンと共演する準備をしています。

2. 電子楽器を使った試み

タッチによる表現の幅が広がったステージアを使った「鍵盤オーケストラ」を立ち上げ、アンサンブルを楽しんでいます。先日は、バイエル、ブルグミュラー、ソナチネをコンチェルト風にして演奏しました。弦楽四重奏曲を二台のステージア（連弾）で奏したりもしています。このような新たなアンサンブルの楽しみ方ができるのも、性能の良い音楽ソフトの出現のおかげです。

各人が担当するのは単旋律とし、同時に全員が各パートを体験することによりチームプレイの経験を積むことを目指しています。ピアノしか弾けない人も、オーケストラや室内楽の一員としての体験ができます。また、音の持続するオルガン奏することによって、ピアノでのメロディーの歌わせ方が分かるようになった、却ってピアノの良さが再認識できた、といった嬉しい成果も出てきています。これからも様々な挑戦をしていきたいと考えています。



新入会員紹介

個人情報につき削除しました。



会員によるコンサート等の情報

(2010年8月1日以降後援受理分)

河本 洋一 さん 日本 G. プッチーニ協会北海道札幌支部設立記念
レクチャーコンサート未公開映像と歌で綴るプッチーニの生涯
日 時：2010年11月15日(月) 18:30
会 場：北翔大学北方圏学術情報センター PORTO
入 場 料：700円
主 催：日本 G. プッチーニ協会北海道札幌支部
共 催：北翔大学北方圏学術情報センター舞台芸術研究プロジェクト/ラ・カンパニ
ーア・アルモーニカ
お問合せ：011-881-6549 (北海道札幌支部事務局)

中村 滋延 さん 現代音楽×メディアアート (中村滋延還暦記念講演・演奏会)
日 時：2010年11月23日(祝) 15:00
会 場：西南コミュニティセンター (主催：西南学院)
趣 旨：作曲家・メディアアーティスト中村滋延の還暦を機に、中村滋延の室内楽作
品と映像音響詩について、演奏・講演を交えた総合的な理解の場を設けます。
内 容：以下3部構成により、上演・上映・講演をもちこむ。
1. ピアノ三重奏曲「ターニングポイント」(2005)の再演
山本佳代子(ピアノ)・原田大志(ヴァイオリン)・市寛也(チェロ)
2. 講演1「クラシック音楽に新作は必要ない？」
3. 講演2「メディアアートとしての映像音響詩」
上演作品：Epitaph(1996)、Lust(2000)、Common Tragedies in Urban
Life(2000)、Mandala Fantasy(2004)、Samsara(2008)
連 絡 先：栗原詩子 musiclef@gmail.com

河村 義子 さん 雪待ち月コンサート2010
—ショパン・シューマン二人の偉大な作曲家に感謝をこめて—
日 時：2010年11月26日(金) 18:30開演
会 場：大垣市スイトピアセンター 音楽堂
趣 旨：今年生誕200年の二人の偉大な作曲家～ショパン・シューマン～の音楽に触
れることによって、地域の人々の音楽文化への認識を深めてもらう。
内 容：ピアノ、チェロ、ソプラノによる、シューマン、ショパンの曲を中心とした
室内楽
連 絡 先：河村義子(かすみの会) Tel. 0584-78-1126

菅 道子 さん 2010年度音楽ワークショップ
日時・内容：第1回 2010年11月28日(日) リコーダーセミナー
第2回 2011年1月8日(土) わらべうた
第3回 2011年1月23日(日) 音楽づくり
第4回 2011年2月27日(日) 動きと音楽
会 場：和歌山大学教育学部音楽棟ホール
趣 旨：音楽に何らかの形で関わっていらっしゃる皆様の日々の課題に何らかのヒン
トとなり、そして音楽の魅力を今一度体験していただけるような音楽ワーク
ショップを開催します。
連 絡 先：菅 道子 kan@center.wakayama-u.ac.jp

澤田 まゆみ さん 澤田まゆみ ドビュッシー頌 IV～室内楽曲～

日時・会場：

①東京公演

2010年12月17日(金)19:00 カワイ表参道 コンサートサロン「パウゼ」

②高崎公演

2010年12月26日(日)14:00 榛名文化会館エコーホール 小ホール

出演：澤田まゆみ (Pf.) 瀬崎明日香 (Vn.) 富田牧子 (Vlc.) 千葉理 (Cl.)

趣旨：ドビュッシーの作品をI・II～歌曲とピアノ曲、III～連弾曲と、2007年から探ってきたシリーズ最終回。ピアノ、ヴァイオリン、チェロ、クラリネットによる室内楽をドビュッシー初期作品から晩年の作品まで演奏します。

内容：ピアノ三重奏曲、ヴァイオリンソナタ、チェロソナタ、第1狂詩曲他

チケット：両会場とも 3,000円

連絡先：澤田まゆみ 027-371-4034 sawadamayumi919@hotmail.com

栗原 詩子 さん クアルテット・エクセルシオ in 福岡III

日時：2010年12月18日(土)15:00

会場：西南学院大学チャペル (主催：西南学院)

趣旨：日本では数少ない常設の弦楽四重奏団として、1990年代から一貫して高く評価されるクアルテット・エクセルシオの演奏を福岡の地で定例化したいと考えています。

内容：W.A. モーツァルト 弦楽四重奏曲 第17番変ロ短調「狩」K.458

G. リゲティ 弦楽四重奏曲第1番「夜の変容」

M. シューベルト 弦楽四重奏曲第14番ニ短調「死と乙女」D.810

連絡先：栗原詩子 musiclef@gmail.com

安藤 政輝 さん 箏りサイタル「宮城道雄・古典への箏手付」

日時：2010年12月20日(月)18:30開場 19:00開演

会場：紀尾井小ホール (東京都千代田区紀尾井町6-5 TEL:03-5276-4500)

出演：安藤政輝

助演：森 雄士、友渕のりえ、藤井泰和、奥田雅楽之一 (以上三絃)、川瀬順輔 (尺八)、他

趣旨：宮城道雄が古典曲への手付をした全3曲を初めて演奏

内容：《吼噓》《水の玉》《尾上の松》

チケット：[前売]4,500円/[当日売]5,000円 (全席自由)

連絡先：安藤政輝 ando.masateru@kisoukai.org

WEBサイト www.h2.dion.ne.jp/~masando/

備考：メールでチケットの申込可

山名 敏之 さん ハイドン クラヴィーア作品大全 Vol.9 偽作真作 II

日時：2010年12月26日(日曜日) 14時30分開場 15時開演

会場：poco a poco (京都市中京区西ノ京職司町8-2) <http://poco.ciao.jp/>

趣旨：今回は、ハイドンの偽作に焦点をあて、初期/中期の作品の中から偽作の可能性の高い作品、曲の一部分のみ残されている作品、二つの作品においてある楽章が重複している作品等を取り上げる。真作と比較することによってみえてくるものは何か、今回はフォルテピアノとクラヴィコードによる演奏を通して検証する。

主要内容：ハイドン：クラヴィーアソナタ第4番：G、第5番：G、第18番：Es、第28番：D、第40番：Es、アレグレット：G、教師と生徒：F、12のメヌエット(1792)

賛助出演：松井典子

チケット：科学研究費補助金によるため無料。(代表者氏名：山名仁 課題番号：21520141)

連絡先：yamana@center.wakayama-u.ac.jp (山名研究室)

会員による CD リリース

吉澤 実さん 「Green Sleeves」
FreeBird レーベル 定価 3,000 円 (税込み)
CD No. FB-001 2010 年 8 月

「Tristeza」
教育芸術社 定価 1,575 円 (税込み)
CD No. GES-14395 2010 年

会員による新刊

吉澤 実さん 吉澤実監修 菊地雅春編曲 「リコーダーカルテット / ディズニー名曲集」
Yamaha music media 定価 2,310 円 [本体 2,200 円 + 税]
ISBN コード 978-4-636-86115-0 C0073 2010 年 12 月

吉澤実、市江雅芳 著 「基礎から学ぶ・みんなのリコーダー」 楽しくウェルネス!
音楽之友社 定価 1,680 円 [本体 ¥1,600+ 税]
ISBN コード 4276645034 9784276645035 2009 年 11 月

菊地雅春編曲 吉澤実監修 「リコーダー四重奏曲集〈クラシック & 童謡編〉」
ドレミ出版社 定価 1,260 円 (税込み)
ISBN 978-4-285-12529-0 2009 年 12 月

菊地雅春編曲 吉澤実監修 「リコーダー四重奏曲集〈ポピュラー & アニメ編〉」
ドレミ出版社 定価 ¥1,470 (税込み)
ISBN 978-4-285-12530-6 2009 年 12 月

吉澤実 監修・模範演奏 石田誠司編著
「ヘンデル ソナタ ト短調」
出版社 リコーダー J P
定価 本体 2,800+ 税
ISBN コード 978-4-86266-196-8
2010 年 12 月 1 日

教員公募

大学名等：弘前大学教育学部

職 種：講師講師

専攻分野：音楽学

〆 切：2011 年 1 月 12 日

詳 細：<http://www.hirosaki-u.ac.jp/saiyo/edu/30.pdf>

問合せ先：弘前大学教育学部 音楽教育講座 今田匡彦



日本音楽表現学会 [編] 『音楽表現学のフィールド』 刊行！

会員特別価格による購入受付開始！

「論文集」編集委員会委員長&事務局長
杉江 淑子

所収論文タイトル



本学会初の論文集『音楽表現学のフィールド』(A5判271頁 税込価格3,360円)が東京堂出版より12月中旬に刊行されます。第1部「音楽における異文化受容」には、ゲスト執筆者の稲賀繁美国際日本文化研究センター教授に書き下ろしていただいた論考をはじめとし、本学会大会で5年にわたって継続的に行われたパネルディスカッションにもとづき、各回の企画者及びパネリストが新たに執筆した論考が収められています。第2部「音楽表現学の可能性」は、音楽表現学の多様な分野(=フィールド)を示して公募した論文を掲載しています。

特別販売価格ご購入のご案内

本学会会員には特別価格でのご購入申込を受け付けます。お一人でも多くの会員の皆様にご購読いただき、本書をきっかけとして、皆様間に「音楽表現学」をめぐる新たな対話が生まれ、交流が広がれば大変嬉しく存じます。

特別価格：2,900円(市価×0.9-α)

*αは学会員に是非読んでいただきたいという気持ちを形にしました。(税・送料込)

購入申込：申込みの上お振り込み下さい。

振込確認後送付します。

様式：p.9の申込書を参照下さい。

方法：メールまたは郵送でお願いします。

宛先：事務局(NLp.1末尾をご参照下さい)

送金：郵便局備え付けの振込用紙をお使い

下さい。

加入者：日本音楽表現学会
口座：01370-6-78225

第1部 音楽における異文化受容

第1章 移民状況の中の「歌」の記憶 [稲賀繁美]

第2章 作曲家における異文化受容

1. ドビュッシーにおける異国主義・象徴主義 [安田香] / 2. 昭和10年代の民族派作曲家における異文化受容 [佐野仁美] / 3. いわゆる“西洋音楽”と「異文化」なるものの関わりについて [阿部亮太郎]

第3章 演奏における異文化受容

1. オペラ歌手にとっての異文化受容 [岡本茂明] / 2. 西洋クラシック音楽の拍節感にみる二つの異文化 [山名敏之] / 3. 箏・箏曲における異文化受容の歴史 [安藤政輝]

第4章 聴衆と異文化受容

1. 聴き手の音楽経験と異文化 [榎藤敦子] / 2. 民俗音楽・民俗芸能における聴衆と異文化受容 [伊野義博] / 3. 異文化と自文化の音楽表現の狭間で [小西潤子] / 4. 日本の学生文化にみる「異文化」音楽の受容 [杉江淑子]

第5章 宗教における異文化受容

1. 神道の視点から見た異文化受容 [嶋津宣史] / 2. 仏教界における異文化としての洋楽の受容 [福本康之] / 3. 南洋の賛美歌・唱歌と伝統歌舞 [安田寛]

第6章 世代別に見た音楽の異文化受容

1. 戦前・戦中派世代の歌唱行動 [奥忍] / 2. 二つの異なった文化に入って悪戦苦闘したこと [村尾忠廣] / 3. 自文化となった西洋音楽の受容 [石原慎司] / 4. インターネット世代における音楽受容 [橋本智明]

第2部 音楽表現学の可能性

- 第1章「バロックとはそれほど異文化的なのか？」 [小野亮祐] / 第2章 タイユフェールとドリーブの歌曲に見る声による表現 [中村順子] / 第3章 “現代音楽”から現代の音楽へ [中村滋延] / 第4章 音楽の連続性を考える視点 [小畑郁男] / 第5章 郷土芸能の学習における「口唱歌」の役割 [桂博章] / 第6章 音楽的コミュニケーション能力を促すピアノ教育 [近藤真子]

機関誌『音楽表現学』Vol.8 発刊のお知らせとお願い

学会誌編集委員長 小西 潤子

お待たせしておりました『音楽表現学』vol.8を発行いたしました。ご覧いただいている通り、投稿論文等6本と掲載数は多くはないのですが、英文の原著論文や書評などこれまでになかったカテゴリーが含まれています。このように、学会誌がだんだん多彩になってきたことを大変喜ばしく思っています。初めてのことに挑戦して、気づいたこともありました。

たとえば、注方式での引用文献の記載方法が、現在アメリカの大学で推奨されている書式と合わないという問題点です。また、書評については分量等の規定が全くありませんでした。編集委員会としては、執筆者に不利益が生じないよう、また過重な負担を強いないようにすることを第一に考えて柔軟に対応しました。こうした経験を活かし、改善すべき点は改善して時代の要求に合ったアップデートをしていくことの必要性を感じました。

さて、論文等のご投稿に際してご留意していただきたいことがあります。日本音楽表現学会の目的は、音楽文化の学術振興に資することにあります。『音楽表現学』は、音楽系研究の細分化が著しいなかで、さまざまな専門分野からなる会員が学問成果を公表することによって音楽表現に関する知を共有し、相互に発展していくことを目指しています。それゆえ、狭い専門領域内の用語に終始

する論考や会員一般の理解を得にくい表現をできるだけ避けることを第一の編集方針としています。執筆者におかれましては、締め切り一杯まで取り組んで論文を書き上げたいところであることは承知しております。しかし、この編集方針についてご理解の上、できればご投稿に先立って第三者に目を通してもらう時間をとっていただくことをお勧めします。また、「投稿規定」にも明記しているように、掲載が決定した論文編集に際しても、編集委員会から修正を求めることがあります。その場合には、速やかに修正案をご提出下さい。

『音楽表現学』の発行にあたっては、編集委員会のもとより、論文等の執筆者および大会発表者等の関係者、事務局、印刷所ご担当者等のたくさんの皆様のお力添えが必要になります。そのバランスが少しでも崩れると、予定通りの発行に至らないこともあります。Vol.8の編集に際しては、当初予測していなかった事態が発生したため、編集委員会および事務局はその対応に時間と気力、体力を費やすことになりました。そこから学ぶことはあったとはいえ、正直なところ大変つらいところでした。投稿者の皆様におかれましては、すみやかな学会誌発行に向けてご協力をいただきますよう、今一度お願い申し上げます。

『音楽表現学のフィールド』 会員特別価格購入申込書

年 月 日

『音楽表現学のフィールド』の購入を下記のとおり申し込みます。

購入冊数 冊

金額 2,900円 × 冊 = 円

氏名(ふりがな):

住所:〒

送付先(上記住所と異なる場合はご記入下さい) 連

絡先電話番号:

連絡先 Fax. 番号:

e-mail アドレス:

Vol.9 の原稿募集

次号の編集に向けて論文等の原稿を募集いたします。締め切りは、2011年5月31日です。みなさまからのご投稿をお待ちしております。



事務局からのお知らせとお願い

1. 2010-11 年度理事の担当分掌

第1回理事会で理事会の担当分掌が決定しましたのでお知らせします。

副会長 安藤政輝
事務局長 杉江淑子
理事 北山敦康 (広報・総務担当)
土門裕之 (広報・総務担当)
谷口雄資 (会計担当)
吉永誠吾 (会計担当)

また、参事は以下の会員に依頼しています。

会長付 似内裕美子、松井萌
事務局長付 近藤晶子、嶋晴子
会計担当付 小森光紗

2. 会費納入について

- ・年会費未納の方には、今回「未納年会費納入のお願い」を同封しています。学会のすべての活動は皆様方の年会費で運営されています。機関誌の発行、大会の開催などさまざまな活動に支障をきたすことのないよう、速やかな納入をお願いいたします。なお、2009年度の総会において会則改定が認められ、3年以上年会費滞納の場合には会員を「除名」となりますので、ご注意ください。(行き違いご送金済みの場合はご容赦下さい。)
- ・年会費については『音楽表現学』巻末に「経費関係細則」を掲載していますので、ご参照下さい。なお、学生会員は、学部生に限られます(会則第5条)。
- ・納入は必ず郵便振替でお願いします。無意識滞納対策の一助として、納入後はただちに、右側の「振替払込請求書兼受領証」(ATMご利用の時は「ご利用明細票」)に、納入年度のメモをお残しいただくことをお勧めいたします。なお、学会では原則として改めての領収書発行はいたしていません。
- ・ATMでの納入をお勧めいたします。会計上も助かります。(窓口:120円、ATM:80円)
- * 以上、ご不明の点につきましては、事務局までお問い合わせ下さい。

3. 正しいメールアドレスをお届け下さい!

事務局では、さまざまなお知らせをメール配信

いたしておりますが、リターン・メールがつねに何通かあります。「最近何も届いていない」という場合、お届けのアドレスが旧アドレスのままである可能性があります。事務局にお問い合わせ下さい。また、メールアドレスを変更された場合には、必ず事務局までお届け下さいますようお願い申し上げます。

4. 『音楽表現学』バックナンバー購入方法

ご希望の方はメールで事務局までお申し込み下さい。代金は、到着後郵便振替でお願いします。
会員価格: Vol.2～Vol.3は1部1500円+送料
Vol.4～Vol.7は1部3000円+送料
一般価格: Vol.2～Vol.3は1部3000円+送料
Vol.4～Vol.7は1部3500円+送料
大学図書館などへの納入については事務局にお問い合わせ下さい。なお、Vol.1は残部がありません。

5. ニュースレターへの投稿

ニュースレターは会員の交流の場です。音楽表現に関するご意見、掲載記事に関するご意見などを掲載します。テーマは何に関してでも自由です。皆様の投稿をお待ちしています。

- ・研究ノート、随想など: 1600字以内
- ・コンサート等情報: 学会後援のものを掲載します。
- ・新刊案内: 会員による刊行物の紹介を行います。上梓されたらお知らせ下さい。
- ・その他: 所属されている他学会の情報などもお寄せ下さい。
- ・投稿受付は随時、事務局宛ワードの添付書類で学会事務局宛にお願いします。

music-expression@music-expression.sakura.ne.jp

6. 学会の会員サポート制度をご活用下さい。

- ・研究発表の場の一つが機関誌『音楽表現学』です。本学会は「日本学術団体」の広報協力団体です。『音楽表現学』に論文が掲載されると、大学などでは「査読付学術論文」としての評価を受けます。業績の報告をされる際には、その旨をお記し下さい。
- ・大会の口頭発表は、日本音楽表現学会ならではの表現力を駆使して、文字だけでは伝えられない音声を用い、これまでの研究を発信できる場、

それを参加者一同が共有できる場です。会員自身の音楽表現の創意や工夫・実践を披露し、その表現力を駆使して、文字だけでは伝えられない音声を用い、これまでの研究を発信できる場、それを参加者一同が共有できる場です。会員自身の音楽表現の創意や工夫・実践を披露し、その妥当性を問うワークショップなど、日本音楽表現学会ならではの生の音楽表現を含めた発表の機会をご利用下さい。

- ・コンサートの後援とご案内：会員による各種演奏、ワークショップ、イベントなどの活動を学会は「後援」します。「後援願」の様式でお寄せ

8. 各種書式

以下の書式を参考の上、メール本文貼り付け、またはワード文書添付、あるいは郵送で事務局まで送付して下さい。

1) 「入会申込書」書式

<p>入 会 申 込 書</p> <p>日本音楽表現学会に入会を申し込みます。</p> <p style="text-align: right;">年 月 日</p> <p>氏 名 (ふりがな)： 専門分野： 住 所： 〒 所 属： 連絡先： 連絡先電話番号： 連絡先 Fax. 番号： e-mail アドレス： 推薦者名 (学会員・1名) 音楽表現学会に期待されること。ご意見等：</p>	<p>[備考]</p> <p>学会からの連絡 (印刷物お届けなど) は、ご記入いただいた「連絡先」に送ります。</p> <p>お届けいただいた情報は、事務局で厳重に管理し、学会事務以外の使用目的には供しません。</p>
---	---

2) 「後援願」書式

<p>コンサート等後援願</p> <p>日本音楽表現学会の後援をお願いします。</p> <p style="text-align: right;">年 月 日</p> <p>氏 名： コンサート等の名称： コンサート等の趣旨： 主な内容： 期 日： 会 場： 連 絡 先： (HP 掲載連絡先)</p>	<p>「後援願」が受理されれば、「後援願受理のお知らせ」文書がお手元に届きます。ポスターやチラシの印刷に後援名義が間に合うよう、ゆとりを持って「後援願」をお送り下さい。受理されたコンサート等は順次学会HPに掲載します。</p> <p>[手続き] メール本文に貼り付け、ワード文書添付、または郵送で事務局まで送付して下さい。</p> <p>なお、HPの掲載で連絡先が異なる場合は、別途ご記入下さい。</p>
--	--

- 3) その他、書式が必要なときには、事務局へお申し出下さい。

下さい。

7. 「日本音楽表現学会会員名簿」2010年度版発行

2010年11月30日現在の会員名簿をお送りします。記事内容は会員のみなさまから寄せられた原稿に基づいています。名簿原稿ご提出ありがとうございます。なお、期日までに原稿が届かなかった会員については、これまでの「新入会員の紹介」欄 および入会時に届けられた専門分野と所属等についてこちらで補充しています。会員間の親睦に、またご研究にこの名簿が活用されることを念じております。

日本音楽表現学会第9回大会のご案内

期日：2011年6月11日（土）～12日（日）
会場：上越教育大学 新潟県上越市山屋敷町1

基調講演：「お酒と音楽」（仮）
シンポジウム：「お酒の音楽表現」（仮）
学会企画ワークショップ：
「音楽表現の理念と技法」No.3、No.4

発表募集

研究発表、ワークショップ、デモンストレーション、共同研究を募集します。

発表申込と切：タイトルと発表形態のみを下記の様式で2月28日（月）までに事務局（music-expression@music-expression.sakura.ne.jp）へお送り下さい。『大会要項』原稿等についての詳細は申込者に通知します。

日本音楽表現学会第9回大会に発表を申し込みます。	4. 発表形態 該当欄に○をおつけ下さい。
1. 氏名 _____	() 共同研究：1時間30分 (2人以上の協同による研究発表)
2. 連絡先 _____	() 研究発表：40分（発表+質疑）
電話 _____	() ワークショップ：40分 (実践体験を含むプレゼンテーションと質疑)
E-mail _____	() デモンストレーション：40分 (VTR 作品上映など)
3. 発表題目 _____	

会場へのアクセス

A 「直江津」経由

①東京方面から（2時間10分）

上越新幹線「越後湯沢」乗換 ほくほ

②大阪方面から（4時間40分）

北陸本線「直江津」下車

JR北陸線「直江津駅」から

バス 教育大学線（約20分）教育大

山麓線（約15分）教育大学東

タクシー（約10分）

B 「高田」経由（東京から2時間50分）

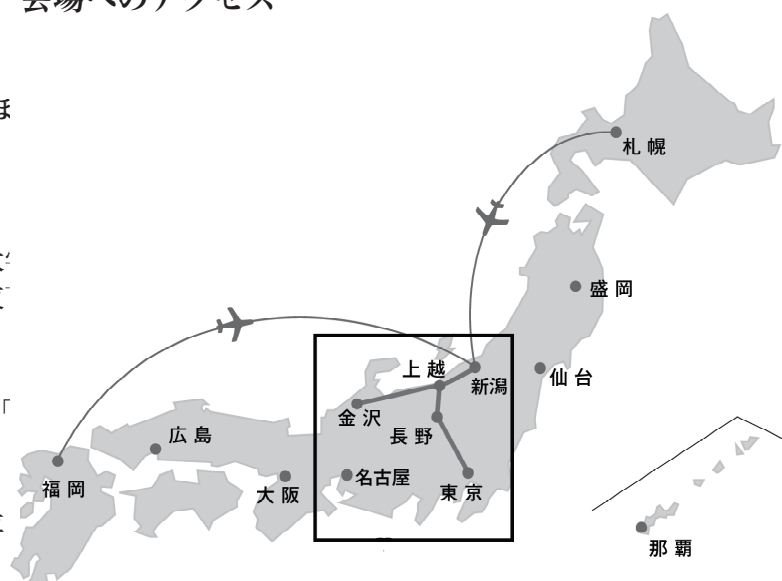
長野新幹線「長野」乗換 信越本線「

JR北陸線「高田駅」から

バス 駅近く本町6丁目バス停から

教育大学線（約15分）教育大学下車

タクシー（約10分）



2010年度役員

会長：奥 忍

理事：安藤 政輝 北山 敦康 杉江 淑子
谷口 雄資 土門 裕之 吉永 誠吾

監事：長岡 功 海津 幸子

会長諮問会議：

草下 實 佐々木 正利 中村 隆夫

参事：小森 光紗 近藤 晶子 嶋 晴子

似内 裕美子 松井 萌

編集委員会：

小西 潤子 伊野 義博 河本 洋一

木下 千代 小畑 郁男 佐野 仁美

選挙管理委員会：

坂東 肇 中 磯子 井上 朋子

編集後記

日本列島を猛暑で包み込んだ2010年。ついに、音楽表現に対する熱い思いが凝縮した本学会初の論文集『音楽表現学のフィールド』を刊行することになりました。巻頭言でも触れておられますが、この論文集の刊行は、学会としては元服の儀式（『音楽表現学のフィールド』序文の奥会長の言葉）に相当するとても重要な軌跡となりました。

役員改選による新体制で迎えた初めての師走。忙しい中にも皆様にステキなご報告ができましたことを心より嬉しく思います。たくさんの感謝の心を込めて・・・みなさま、良いお年をお迎え下さい。
(土門裕之)